国文学研究資料館年報

National Institute of Japanese Literature

平成25年度(2013)

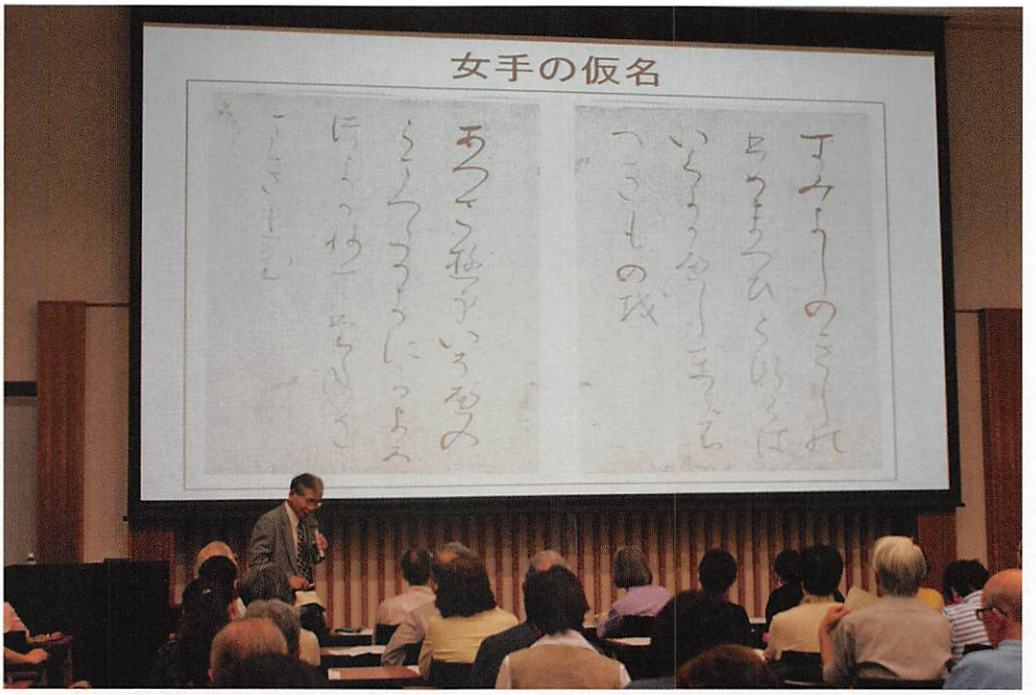
国文学研究資料館年報

National Institute of Japanese Literature

平成25年度(2013)

口絵１　国文学研究資料館（外観）

口絵２　古典の日講演会



口絵３　サテライト講座

口絵４　アーカイブズ・カレッジ長期コース

はじめに

昨年創設40周年を迎え、品川区戸越からの移転後６年を経た国文学研究資料館は、立川での事業・研究体制も軌道に乗り、創設以来継続してきた調査・収集事業、また充実した設備を生かした展示、館外の研究者との共同研究プロジェクトなどを滞りなく実施・遂行しています。

新設備の機能を生かした展示は、源氏千年紀の特別展示、陽明文庫の国宝を含む貴重書展示、一昨年の方丈記800年記念展示など、いずれも好評を博してきましたが、昨年度からは方針を変え、本館所蔵の典籍を中心とした常設展示を軸に、来館者に本館の事業と研究の姿を示す展示に力を入れています。これによって、従来、年数回の特別展示に伴う展示替えのための休室期間を大幅に減らし、展示室の有効活用と経費節減を兼ねた運営を目指しているところです。

事業としては、向こう10年間にわたる大型プロジェクトが始まります。25年度概算要求を提出し、準備経費の措置を得て始動した、日本学術会議の提言にもとづく「日本語の歴史的典籍のデータベース構築計画」が、科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会ならびに文部科学省のご理解とご支援を得て、26年度概算要求において、人文社会科学系初の「大規模学術フロンティア促進事業」に認定され、本年４月から本格的に開始されます。

ただし、事業の開始に当たっては、26年度概算要求に際しての見直しにより、計画名称および内容を「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に変更し、古典籍の画像データベース構築に加えて、それを研究資源とした国際共同研究を実施することになりました。当館は国文学を中心とする国内外との共同研究については、これまでにも実績を積み重ねてきましたが、今後は異分野との融合研究を視野に入れた、より意欲的な共同研究の展開に努めます。

昨年度、準備経費の措置を受けて、館では改組を行い、新組織「古典籍データベース研究事業センター」を立ち上げ、特任教授、准教授、ポスドク研究員、事務職員等を任用・配置して態勢を整えましたが、計画の見直しを受け、本年度から名称を「古典籍共同研究事業センター」とし、さらに２名の特任准教授の採用をはじめ、事務部門も充実させる予定です。

この事業は、館創設以来の調査・収集事業、古典籍総合目録データベース作成というこれまでの事業の総決算でもあり、館創設50周年に向けてその実現に努める所存です。

人間文化研究機構
国文学研究資料館長
今西　祐一郎

国文学研究資料館年報

平成25年度（2013）

目　　次

館長挨拶

Ⅰ　共同研究 …… 1
　1. 基幹研究 …… 1
　2. 特定研究 …… 7
　3. 国際連携研究 …… 14

Ⅱ　情報事業センター …… 16
　1. 調査収集事業部 …… 16
　2. 電子情報事業部 …… 17
　3. 情報資料サービス事業部 …… 24
　4. 学術企画連携部 …… 33
　　ⅰ）国際交流室 …… 33
　　ⅱ）展示企画室 …… 35
　　ⅲ）広報出版室 …… 36

Ⅲ　古典籍データベース研究事業センター …… 40
Ⅳ　新収和古書一覧 …… 44
Ⅴ　各教員実績一覧 …… 63
Ⅵ　科学研究費助成事業実績一覧 …… 87
Ⅶ　刊行物一覧 …… 88
Ⅷ　外国人研究員・外来研究員 …… 89
Ⅸ　海外出張・研修一覧 …… 92
Ⅹ　各種委員会一覧 …… 98
Ⅺ　運営会議委員・幹部職員一覧 …… 133
Ⅻ　大学院教育 …… 135
ⅩⅢ　管理運営（総務・財務） …… 141
付　賛助会 …… 145

付　賛助会

【概要】

国文学研究資料館では、平成19年度から、当館が行う日本文学研究の推進、若手研究者への奨励、国際交流及び社会連携等の諸活動に幅広く支援を得るために賛助会を設置し、平成25年度の会員数は、特別会員１名、賛助会員（個人）50名、賛助会員（団体）１名である。

【会員募集要項】

1　募集対象

当館の事業趣旨に賛同する個人・団体を対象。

2　会員期間

入会日から入会日の属する年度の年度末まで。

3　寄附金

特別会員	一口	10万円
賛助会員（個人）	一口	3千円
賛助会員（団体）	一口	1万円

4　入会申込みと寄附金払込みの方法

入会にあたっては、「会員募集のご案内」に添付の申込書を郵送してもらう。

別途、当館から入金に関する案内を返送する。

5　入会した際の優待

（1）当館が開催する講演会、展示、シンポジウム、研究集会等の催し案内を送付する。

（2）当館が刊行する広報誌（概要・ニューズ）を送付する。

（3）特別会員、10口以上の賛助会員（個人）及び３口以上の賛助会員（団体）は、希望により館内に名前（社名等）を掲示する。

（4）特別会員及び10口以上の賛助会員（団体）は、希望により当館のホームページに社名等を掲載する。

（5）その他、当館が主催する催しについて各種優待をする。

【日本古典文学学術賞】

当館賛助会では、日本古典文学会賞を継承し、若手日本古典文学等研究者の奨励、援助を目的として、日本古典文学学術賞を制定している。

本学術賞の対象者は40歳未満の研究者であり、１回の授賞は３名以内までとしている。対象とする業績は前年の１月から12月までに公表された、日本古典文学に関する論文又は著書としている。

選考方法は、当館賛助会に設置している選考委員会委員からの推薦及び過去の受賞者からの推薦による対象者の論文を選考委員会で審議を行うこととしており、受賞者には賞状と賞金20万円を授与することとしている。

第６回日本古典文学学術賞（対象年：平成24年）
受賞者：光延真哉氏（東京女子大学現代教養学部准教授）
研究業績：『江戸歌舞伎作者の研究：金井三笑から鶴屋南北へ』
笠間書院　2012年２月
受賞者：一戸　渉氏（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫准教授）
研究業績：『上田秋成の時代　上方和学研究』
ぺりかん社　2012年１月

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構

国文学研究資料館

〒190-0014　東京都立川市緑町 10-3
TEL：050-5533-2900　FAX：042-526-8604

URL;http//www.nijl.ac.jp
National Institute of Japanese Literature(NIJL)
National Institute for the Humanities
Address:10-3 Midori-cho, Tachikawa city, Tokyo 190-0014, Japan
Telephone:+81-50-5533-2900 Facsimile:+81-42-526-8604